

【第41回通常総会 第1号議案】 平成28年度(2016年度) 事業報告書

自 平成28年4月 1日

至 平成29年3月31日

I. 概要

主力のプリズム式双眼鏡の日本からの輸出(出所:財務省輸出入統計)は、数量で16万個、金額で29億円(昨年34億円、平均単価は2万円)、対前年比数量で8%減、金額で14%減と北米及び第3地域の売上げが低調であった。仕向け地域別輸出金額上位5カ国の高額順、及び平均単価・シェア(カッコ内)は、①米国12億円(2万円、40%)、②ドイツ3.9億円(1.7万円、13%)、③オランダ3.4億円(3.9万円、11%)、④カナダ1.9億円(4万円、6%)、⑤オーストラリア1.1億円(5.1万円、4%)、ちなみに売上1位の米国は前年同期比金額ベースで5億円の減少となった。

同じくプリズム式双眼鏡の自主統計(出所:生産販売統計、産地直送含む)では、国内販売が前年比数量で横ばい、金額では4%減であった。一方、輸出では数量で1%増、金額で10%減と円高による影響で減少した。金額ベースでの国内対輸出比率は17%対83%(前年16%:84%)で昨年と同水準であった。なお、国内を含む売上比率は、①北米44%、②欧州30%、③国内17%、④その他9%であった。

本年度のイベントは工業会事業見直しの一環として、費用のかからないものに限定して出展した。

①出展中止:CP+2017、大阪バードフェスティバル、産業交流展、三鷹星と宇宙の日 →開催内容は省略。

②出展継続:原村星まつり、胎内星まつり(自主参加)、練馬まつり

主な内容:原村・胎内星まつりでは、OEMメーカー2社の専門スタッフのご協力を得て、好評の双眼鏡清掃サービスを実施した。また工業会ブースでは、最新商品の展示、使い方・楽しみ方、構造理解、カタログ配布、アウトレット販売の他、メーカー2社の専門スタッフによる最新商品の説明をおこなった。

③実行委員会:ジャパンバードフェスティバル主催団体として事務局が実行委員会(副実行委員長)に参画。

平成28年度(2016年度)の当工業会各事業の具体的内容について、以下の通り報告する。

II. 事業報告

1. 会議

1.1 第40回通常総会:平成28年5月27日(金)、池袋東京セミナー学院にて開催し、議案は全て承認された。

【議案】

第1号議案 平成27年度事業報告書及び収支決算書承認の件

第2号議案 平成28年度事業計画書承認の件

第3号議案 平成28年度会費の額及びその納入方法承認の件

第4号議案 平成28年度収支予算書承認の件

1.2 総会懇親会は平成28年5月27日(金)、池袋東武百貨店バンケットホールにて開催、出席者56名(事務局含む)。賀詞交歓会は平成29年1月27日(金)、池袋東京セミナー学院にて開催し、72名の出席をいただいた。

1.3 理事会:新公益法人改革の法律及び定款にもとづき、継続事業報告を定期的実施し内容・進捗を確認した。

①5月13日(金):第40回通常総会議案審議、総会運営要領の件、他。

②5月27日(金):第40回通常総会、新役員による初理事会、会長・副会長の選出、他。

③9月2日(金):工業会の今後に関するヒアリング結果報告、継続事業1~6の実施進捗状況報告
双眼鏡・望遠鏡歴史展示室の内覧会。9月9日に開設。

④11月25日(金):継続事業1~6の実施進捗状況報告、イベント出展報告(10月~11月)、他。

⑤平成28年1月27日(金):継続事業1~6の実施状況報告、新年度理事会日程、他。

⑥平成28年3月10日(金):第41回総会議案審議、継続事業1~6の実施状況報告、他。

1.4 総務広報委員会:工業会の今後に関する方向性を議論した。

①平成28年12月12日(月):工業会の今後に関する課題レビュー、建屋及び設備確認、事務所賃貸(案)

②平成29年1月23日(月):継続事業、収益事業の検討、平成28年度収支予算書の費用明細(積算根拠)

③平成29年3月3日(金):平成29年度事業計画&収支予算書(案)の検討

1.5 技術委員会:平成28年12月1日(木)

主な議題としては検査関連機器、分光透過率測定、依頼検査等々の依頼件数と動向について事務局報告後、技術研修会の実績と今後のテーマ検討等々、試験検査設備の要不要(売却、処分)の区分、及びホームページに掲載していない器具販売、検査試験機能の存続可否、事務所・会議室を貸事務所とする件など議論した。

平成28年度の技術研修会実績は、4.6.2研修会事業にて掲載。

なお、平成29年度の技術研修会は2回開催することで準備中。事前アンケートを実施した。

1.6 業界活性化委員会

本年度は工業会事業の見直しの一環で出展イベントを抑制したので会議は休止している。
なお、委員長と事務局ではイベント出展、その他において意見交換・情報共有をはかっている。

2. 会員入会情報

- 2.1 入会、正会員1社 ・株式会社成和投資発展日本支部 (平成29年1月1日付)
- 2.2 退会、正会員2社 ・株式会社御幸光学工業所 (平成29年3月31日付)
- ・成和光学株式会社 (平成29年3月31日付)
- 2.3 平成29年3月31日付現在の会員数:正会員数30社(前年比1社増、2社減)、賛助会員数8社(変わらず)

3. 「双眼鏡・望遠鏡歴史展示室」の開設について

歴史関連事業は広報活動の一環として、整備を進めてきました。(社)双眼鏡工業会設立から40周年を機に双眼鏡・望遠鏡歴史展示室として開設すると共にホームページにも掲載いたしました。ご協力いただきました関係各位に感謝申し上げます。今後も内容の充実を図ると共に資料の電子化なども進めてまいります。

4. 継続事業報告

4.1 国際標準化規格関連事業 (ISO/TC172/SC4分科会)

4.1.1 SC4 望遠鏡 (Telescopic Systems) の構成メンバー

議長:Dr.Vladimir.E.Yashin(ロシア)、事務局:GOST、Dr. R.Andreyev(ロシア)

作業グループ:WG2(ライフルスコープ)が活動中。

Pメンバー(9ヶ国):オーストリア、中国、ドイツ、日本、ルーマニア、ロシア、イギリス、アメリカ、韓国

Oメンバー(6ヶ国):フランス、ポーランド、サウジアラビア、スロバキア、スイス、スペイン

4.1.2 [SC4国内委員会活動経過]:平成28年9月28日、29年1月27日、計2回実施した。

平成28(2016)年度は、国際会議は開催されず、国内会議の開催2回、ISO投票8件(SR1件)、FDIS1件、DIS4件、CIB2件)の活動となった。

4.1.3 [会議]:平成28年9月28日、29年1月27日、計2回実施した。

・9月28日:ISO投票に関する対応を検討した(FDIS1件、DIS3件、SR1件)。分解能に関するJIS原案作成委員会の審議状況(ISO14490-7のJIS化)。JISの定期見直しについて(対応ISOの改定に応じた修正等の検討)。

・1月27日:ISO投票結果について報告し、各国コメントについて検討した(FDIS1件、DIS3件、SR1件)。

[ISO投票結果に関しては省略]

4.1.4 [SC4 活動内容と総括]

TC172/SC4は、「光学及びフォトンクス関連の分野のうち、望遠鏡の用語、性能特性、試験方法における規格」を制定する技術委員会であり、1992年10月にサンクトペテルブルグで開かれた第1回国際会議でSC4の活動が始まり、およそ20件の規格の審議が進められてきた。

なお、Pメンバー9カ国のうち、最近国際会議に参加しているのは、ロシア、ドイツ、オーストリア、アメリカ、日本の6カ国である。

SC4として、2002年に最初の規格を発行して以来これまでに21件の規格(移管分を含む)を担当している。

現在、14135-1,2ライフルスコープ特性、14490-5望遠鏡試験方法(第5部:透過率)の改定版作業が最終段階にある。また、10109-4を独立させた20711の作業も同様である。

一方、初期に発行されたその他の規格も、見直し修正または改定が進められており、SC4国内委員会は、投票はもとより、これらの作業や審議に積極的に関わり、検討・討議を行っている。

4.1.5 [これまでに日本で原案を作成した規格]

ISO14132-4 望遠鏡用語(第4部:天体望遠鏡)

ISO14134 天体望遠鏡特性(一般品と高性能品の2規格を統一)

ISO14490-4 望遠鏡試験方法(第4部:天体望遠鏡)

4.1.6 [規格の審議状況:2016年のみ記載]

ISO14133-1:2016 単眼鏡双眼鏡特性(一般品)(第2版) 2016/05/01

ISO14133-2:2016 単眼鏡双眼鏡特性(高性能品)(第2版) 2016/05/01

ISO14490-3:2016 望遠鏡試験方法(第3部:ライフルスコープ)(第2版) 2016/02/15

ISO14490-7:2016 望遠鏡試験方法(第7部:分解能限界)(第2版) 2016/11/15

4.1.7 [DIS]

DIS20711 望遠鏡試験方法(試験環境)(ISO10109-4)

DIS14135-1 ライフルスコープ特性(一般品)

DIS14135-2 ライフルスコープ特性(高性能品)

DIS14490-5 望遠鏡試験方法(第5部:透過率)

4.1.8 [JIS原案作成委員会]

ISO14490-7(望遠鏡試験方法(第7部:分解能限界))を基にしたJISについて、(一財)日本規格協会の公募制度(H28年度区分A)に採択され、3回の委員会(内1回は書面)での審議を経て、ISO14490-7(望遠鏡試験方法(第7部:分解能限界))を基にしたJISの原案を作成した。

<会議日程等>

- ①平成28年7月26日 第1回 経緯説明、JIS原案(案)の説明と審議
- ②平成28年12月8日 第2回 JIS原案(修正案)の説明と審議
- ③平成29年1月6日 第3回(書面) JIS原案(最終案)の確認

4.2 ホームページ関連事業

平成27年度事業報告・収支報告、及び平成28年度事業計画・収支予算書(6月)、会員名簿(住所変更、URLなどは適時対応)、財務省統計(3ヶ月毎の更新)、イベントカレンダーの更新(1回)、双眼鏡・望遠鏡歴史展示室開設に関するバナーリンクの設置、検査工具機器に関する最新情報を掲載した。

4.3 イベント関連事業

4.3.1 野鳥関係

① ジャパンバードフェスティバル(JBF2016)

会期:平成28年11月5日(土)~6日(日)、会場:千葉県我孫子市手賀沼親水広場、(公財)山科鳥類研究所、他
主催:ジャパンバードフェスティバル実行委員会(事務局は我孫子市)、出展:工業会関連10社、員外社5社
実行委員会:本年度より工業会事務局が参加することになった。

なお、工業会行事と重ならない日程のみ(下記下線部)出席した。

会議日:平成28年4月22日総会、6月29日、8月18日、10月7日、11月25日、平成29年2月24日

4.3.2 天体関係

① 原村星まつり

会期:平成28年8月6日(金)~8日(日)、会場:長野県諏訪郡原村、八ヶ岳自然文化園内
主催:原村星まつり実行委員会、出展:工業会関連7社、(一社)日本望遠鏡工業会

② 胎内星まつり(自主参加)

会期:平成28年8月26日(金)~28日(日)、会場:新潟県胎内市胎内平
主催:胎内星まつり実行委員会、出展:工業会関連9社、(一社)日本望遠鏡工業会

4.3.3 その他イベント

① 練馬まつり

会期:平成28年10月16日(日)、会場:東京都練馬区としま園
主催:東京都練馬区、出展:(一社)日本望遠鏡工業会

4.4 調査広報事業

4.4.1 公式発表されている財務省関税局輸出入通関統計(双眼鏡、単眼鏡、ライフルスコープ等)をホームページに掲載すると共に会員向けには会報内に電子メールにて配信した。なお、会員企業による自主統計は継続中。

4.4.2 国内外の市場・流通動向:諸統計にて掲載。

4.4.3 各種イベント案内:ホームページに掲載すると共に会員向けには会報(電子メール)にてお知らせした。

4.4.4 事業成果の普及:通常総会にて承認後、ホームページに掲載した。

4.5 関連団体提携事業

4.5.1 軽機械センター運営協議会への参画事業:中国・欧州情報収集

- ・6月9日(木)、幹事会(会計報告・事業計画)に出席、石井北京事務所所長の中国事情の報告会
平成28年2月7日(火)、平成29年予算書を審議し承認された。
また経産省の片岡課長から米国の最新事情に関して報告があった。

- ・会員構成:(一社)ビジネス機械・情報システム産業協会、日本機械輸出組合、JETRO、(一社)日本時計協会、(一社)カメラ映像機器工業会、(一社)日本縫製機械工業会、(一社)日本望遠鏡工業会

4.5.2 日本光学工業協会への事業運営参加:国際標準化規格、JIS関連、技能検定等々、TC172活動報告の発行

- ・6月8日(水)役員会(事業報告&会計報告、事業計画&収支予算書)に出席
- ・会員構成:日本顕微鏡工業会、日本光学測定機器工業会、日本医用光学機器工業会、(一社)カメラ映像機器工業会、(一社)日本測量機器工業会、(一社)日本写真映像用品工業会、(一社)日本望遠鏡工業会

4.5.3 (一社)日本写真映像用品工業会との業務提携:CP+協力、各種イベントにて用品年鑑を配布。

6月8日(水)セミナー&会員交流会に参加、6月21日(火)フォトネキスト見学・情報交流、12月15日(木)定時社員総会オブザーバー出席・会員交流忘年会に参加

4.5.4 (一社)天体望遠鏡博物館(四国さぬき市、結願の里)との業務提携:10月22日(土)新旧技術委員長ほか計4名にて村山代表理事を訪問し、施設内の説明を受けた。3月のオープニングセレモニー時よりも整備が進み充実されていた。

4.5.5 日本天文協議会(2010年9月9日発足)への参画:

- ・平成28年2月18日付入会承認。
- ・28年度は星空関係イベントの後援名義について2件の承認事項があった。
- ・日本天文協議会(抜粋):世界天文年2009の成果を引き継ぎ、日本の天文研究、普及・アマチュアが一体となって、天文と科学の理解を日本の社会に広げるための合同組織(会長:海部 宣男)。
- ・会員構成:(公社)日本天文学会、自然科学研究機構 国立天文台、宇宙航空研究開発機構、天文教育普及研究会、日本プラネタリウム協議会、日本公開天文台協会、日本天文愛好者連絡会、星空を守る会、(一社)日本望遠鏡工業会

4.6 経営環境関連事業

4.6.1 中小企業経営強化税制の説明会に参加した。

4.6.2 研修会開催事業(技術委員会主催)

- ① 6月29日(水)、(一社)天体望遠鏡博物館代表理事の村山昇作様による「世界唯一の天体望遠鏡博物館の開館にあたって」を実施した。

4.6.3 部会活動事業 1.5 業界活性化委員会にて記述。

5. 検査・測定機器

5.1 検査依頼:合計74件 (平成27年度69件、平成26年度85件)

依頼検査・性能検査(21件)、検定・校正(視度望遠鏡・ダイナメータ・光軸検査器:49件)、分光透過率(4件)

5.2 検査器具販売:合計131件 (平成27年度175件、平成26年度146件)

視度望遠鏡(66件)、携帯型光軸平行器(10件)、ダイナメータ(2件)、ランプ(53件)

6. 行政府機関等への調査協力

6.1 経済産業省産業機械課:セーフティーネット保証5号、分類番号2751:顕微鏡・望遠鏡
データ内容は主力のプリズム式双眼鏡に関して、自主統計(協力企業)をもとにした生産・販売動向。
調査期間は平成26年～28年、1月～3月(4月下旬回答)、4月～6月、7月～9月、10月～12月、年4回
なお、データの回答は顕微鏡工業会と協議のうえ望遠鏡工業会にて回答を継続中。

6.2 東京都産業労働局商工部経営支援課:東京都概要調及び業種別動向調査、11月2日(水)回答済み
動向調査期間:平成27年10月～平成28年9月、概要調:平成28年10月末
中小企業支援事業説明会への出席:平成29年3月28日(火)